

内部質保証推進委員会「中・長期計画到達目標チェックシート」改善策等について
(令和6(2024)年度 第2回内部質保証推進委員会 2024/10/11審議決定)

全学自己評価実施委員会		該当 各部署自己評価実施委員会	内部質保証推進委員会	
最も改善が必要である区分・目標・具体的計画を記載してください。【一つのみ】	上申コメント		改善指示	改善指示内容
1.教育の推進・充実 (1)学部教育の充実と質の保証 ⑦ I Rシステムの活用促進	BIツールの利用にある程度の進展が見られるものの、ツールが目標達成にどのように貢献しているかの評価が困難です。今後は、収集したデータの分析結果を元にした具体的なエンrollment・マネジメントへの応用と、学生支援への活用状況の説明を行うべきです。	<大学教育センター運営委員会> <教務委員会>	改善	BIツールの効果を具体的に示すため、データ分析結果のエンrollment・マネジメントや学生支援への具体的な活用例を明確にすること。
2.研究の推進 (1)研究の推進 ① 多様な研究の推進・充実	計画に対する実施内容の具体性不足 報告書においては、研究業績数の増加に向けた計画の達成状況について一部言及がありますが、計画に記載された「多様な研究の推進と充実」に向けてどのような具体的な施策を実施したか（あるいは実施しなかったか）の詳細な記載が不足しています。特に、教員研究費や各種研究制度に関連する規程の見直しがどのように進められたのか、またその結果としてどのような効果があったのかについての説明が不十分です。これに関して、実施した具体的な内容とその影響を今後の報告書に明確に記載するべきです。	<学術情報委員会>	改善	報告書において、計画達成に向けた具体的な施策の記載が不十分であるため、教員研究費や研究制度に関連する規程の見直しの進捗と効果を明確に記載すること。
2.研究の推進 (2)研究支援体制の充実 ① A I・データサイエンス教育に関する研究組織の設置及び充実	全学的な認識共有の不足 AI・データサイエンス分野の必要性が全学的に共有されていないことが報告されていますが、これが具体的にどのような要因によるものかが明確にされていません。AI・データサイエンス教育が大学全体の教育方針や将来的な競争力にどのように貢献するかをより広く認識させるため、啓蒙活動や学内セミナーを増やすことが求められます。	<大学教育センター運営委員会>	改善	AI・データサイエンス分野の必要性が全学的に共有されていない要因を明確にし、大学の教育方針や競争力への貢献を広く認識させるため、啓蒙活動や学内セミナーの増加を図ること。
2.研究の推進 (2)研究支援体制の充実 ② 外部研究資金獲得に向けた支援	個別の教員の取り組みの情報収集不足 個々の教員がAIやデータサイエンス分野に取り組んでいる活動に関する情報が十分に収集されていない点が課題として挙げられています。これに関して、各教員の研究活動や教育実践を広く把握するためのシステムやアンケート導入の指示をお願いします。	<学術情報委員会>	検討	各教員のAIやデータサイエンス分野における研究活動や教育実践の把握が不足しているため、情報収集を強化するためのシステムやアンケートを導入し、広く情報を収集すること。
2.研究の推進 (2)研究支援体制の充実 ③ 研究成果の情報発信の強化	計画と実施内容の具体的な検証不足 報告書には、科研費申請支援に関する様々な取り組みが記されていますが、計画で挙げられた具体的な実施項目（例：外部講師による勉強会や個人面談・添削指導、パイアウト制度の検討など）が実際にどの程度実施されたのかが「検証結果」には十分に反映されていません。計画達成に向けて実施された具体的な取り組みと、その成果について詳細な検証が必要です。	<学術情報委員会>	改善	科研費申請支援に関する具体的な実施項目の進捗が不明確であるため、外部講師の勉強会や個人面談、パイアウト制度の検討など、計画達成に向けて実施された取り組みとその成果を詳細に検証すること。
2.研究の推進 (2)研究支援体制の充実 ③ 研究成果の情報発信の強化	公開講座・研究フォーラムの実施状況に関する指標の追加 2024年度計画に記載されている「公開講座」「研究フォーラム」の拡充について、その実施有無に関する記述が不明確です。これらの活動は、研究成果を一般社会に還元するために非常に重要な要素であり、計画通りに実施されているかを評価するために、指標に「公開講座・研究フォーラムの実施回数」や「参加者数」「満足度」を含めることが適切であると考えます。	<学術情報委員会>	改善	2024年度計画の「公開講座」「研究フォーラム」の拡充に関する実施状況が不明確なため、評価指標に「公開講座・研究フォーラムの実施回数」「参加者数」「満足度」を含め、計画の進捗を明確にすること。
2.研究の推進 (3)図書館機能の充実 ① 図書館設備の充実、電子化への対応等、利用環境の整備	計画達成に向けた実施項目の検証不足 報告書には2023年度におけるリプレイスや電子書籍の導入、蔵書の整理など、いくつかの実施事項が記載されていますが、計画達成のために設定された具体的な実施項目の多くについて、その実施状況が十分に検証されていません。例えば、クラウド型図書館システムの運用や、非来館型サービスの充実にに向けた各種施策について、実施の有無やその成果についての詳細が不足しています。	<学術情報委員会>	改善	クラウド型図書館システムの運用や非来館型サービスの充実にに向けた施策について、実施状況や成果が十分に検証されていないため、各実施項目の有無とその成果を詳細に確認し、報告書に反映すること。
3.学生支援の充実 (2)学生生活に関する支援・充実 ① 課外活動の支援・充実	クラブ勧誘活動の結果に関する報告の不足 報告には、クラブ勧誘活動の実施が記載されていますが、前期・後期2回の勧誘活動によって実際にどれだけの新入部員を獲得したのか、またその成果がどのようであったかについての具体的なデータが記されていません。「計画達成のための具体的実施項目」として設定された目標（新入部員数200名）が達成されたかどうかを示す結果を検証し、具体的な数値を報告することが必要です。	<学生委員会>	改善	クラブ勧誘活動の成果に関する具体的なデータが不足しているため、前期・後期の勧誘活動による新入部員数が目標の200名に達したかどうかを検証し、具体的な数値を報告すること。
3.学生支援の充実 (4)保護者との連携 ① 保護者専用ポータル等を利用した保護者との連携促進	HUPAS情報配信回数に関する報告の不備 計画の指標として掲げられている「HUPAS情報配信回数年間3回以上」について、報告にはその実施回数が具体的に記載されていません。これに関して、HUPASを通じた情報発信が実際に何回行われたのか、またその内容や効果に関する検証結果を明示する必要があります。	<学生委員会>	至急改善	計画指標である「HUPAS情報配信回数年間3回以上」について、報告に具体的な実施回数が記載されていないため、実際に何回情報発信が行われたのか、またその内容や効果に関する検証結果を明示すること。
3.学生支援の充実 (4)保護者との連携 ① 保護者専用ポータル等を利用した保護者との連携促進	各支援事業の実施件数に関する報告不足 「各支援事業の実施件数」についても、計画達成に向けた指標として設定されているものの、実際の件数が報告書に記載されていません。具体的にどの支援事業が何回実施されたのかを明示することで、保護者や学生に対する支援活動がどの程度充実していたかを評価できるようにする必要があります。	<学生委員会>	改善	「各支援事業の実施件数」について、計画達成の指標であるにもかかわらず、報告書に具体的な件数が記載されていないため、どの支援事業が何回実施されたかを明確に示し、保護者や学生への支援活動の充実度を評価できるようにすること。
5.社会連携の推進 (2)企業連携の推進 ① 企業連携による教育・研究等の推進	計画達成に向けた実施項目の検証不足 計画に掲げられている「経営相談制度を学生支援にも活用する」取り組みについて、報告には具体的にどのような支援が行われたか、また学生支援にどのように活用されたかが明確に記載されていません。今後は、学生がどのような形で経営相談制度を活用できたのか、またその効果がどうであったかについて具体的な結果を検証し、実施内容を報告することが必要です。	<社会連携委員会>	改善	計画に掲げられている「経営相談制度を学生支援にも活用する」取り組みに関して、報告書には具体的な支援内容や活用方法が不明確なため、今後は学生がどのように経営相談制度を活用できたか、その効果を具体的に検証し、実施内容を報告すること。
6.キャンパス整備の推進 ② 学生福利厚生施設の改善	学生満足度に関する調査結果の報告不足 計画の指標として掲げられている「施設に対する学生満足度」について、報告には具体的な調査結果が記載されていません。満足度調査が実施されたかどうか、実施されていない場合はその理由を明示する必要があります。	<法人管理運営事項実施委員会>	改善	計画の指標である「施設に対する学生満足度」について、報告書に具体的な調査結果が記載されていないため、満足度調査が実施されたかどうか、実施されていない場合はその理由を明確にし、今後の対応を報告すること。
6.キャンパス整備の推進 ② 学生福利厚生施設の改善	食堂スペースの改善に関する懸案事項の未対応 計画当初の到達目標に記載されている食堂スペースの改善に関して、2023年度の報告には触れられておらず、その進捗や対応状況が不明瞭です。過去に到達目標が達成されたわけでもないため、次年度に向けてこの懸案事項について何らかの対応方針や進展状況を記載する必要があります。	<法人管理運営事項実施委員会>	改善	計画当初の到達目標に掲げられている食堂スペースの改善について、2023年度の報告には進捗が記載されておらず不明瞭なため、次年度に向けてこの懸案事項への対応方針や進展状況を具体的に記載すること。
7.大学運営の充実 (1)自己点検・評価活動の実質化 ① 内部質保証のシステムの充実	各部局自己評価実施委員会からの改善報告について 計画達成のための具体的実施項目において、内部質保証推進委員会が各部局自己評価実施委員会に対して指摘・改善内容を指示する流れが記載されていますが、その改善内容に対する各部局からのフィードバックや対応状況が報告されていません。もし各部局自己評価実施委員会から改善報告が提出されている場合、その内容を反映し、どの程度改善が進んだかを評価するために「改善対応率」などを指標に加えることが有効です。この指標を用いることで、PDCAサイクルの効果的な実施状況を定量的に把握し、次年度の計画に役立てることが可能です。	<大学管理運営事項実施委員会>	検討	計画達成における内部質保証推進委員会からの指摘・改善内容に対して、各部局自己評価実施委員会のフィードバックや対応状況が報告されていないため、改善報告が提出されている場合はその内容を反映し、改善進展を評価するために「改善対応率」などの指標を導入すること。
7.大学運営の充実 (2)大学・広報機能の充実 ① 広報活動を通じた阪南大学ブランドの確立	全学的な意思決定機関の設置とブランド・マネジメントの強化 学長の施政方針に基づき、阪南大学のブランド・マネジメントをより効果的に進めるためには、全学的な意思決定機関を設置し、ブランド戦略の企画・実施を統括する必要があります。従来「提案して終わり」といった慣習を打破し、戦略的かつ一貫した広報活動を推進するためには、ブランド戦略が大学全体の共通目標として明確に認識され、具体的な行動計画として実行される体制の整備が必要です。	<法・大学管理運営事項実施委員会>	検討	阪南大学のブランド・マネジメントを効果的に進めるためには、全学的な意思決定機関の設置は重要なステップで、ブランド戦略を大学全体の共通目標として統一し、戦略的かつ一貫した広報活動を実現するため明確な行動計画を立て、その実行と評価を行う体制を整えること。
7.大学運営の充実 (4)大学運営体制の整備 ① 学長のリーダーシップに基づく取組の推進	計画達成に向けた実施項目の検証不足 計画達成のための具体的実施項目にある「IRを用いた政策企画の取組み」について、報告にはその結果や実施状況が明確に記載されていません。IRを活用した政策企画がどのように大学運営に影響を与えたか、その具体的な成果や取り組みの進捗を「検証結果」に示すことが必要です。	<法・大学管理運営事項実施委員会>	改善	計画達成のための具体的実施項目に掲げられている「IRを用いた政策企画の取組み」について、報告に結果や実施状況が不明確であるため、IRを活用した政策企画が大学運営にどのように影響を与えたか、具体的な成果や取り組みの進捗を「検証結果」に明示すること。